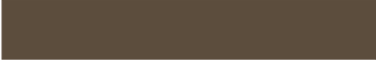











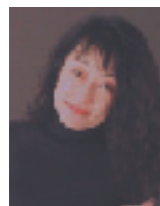
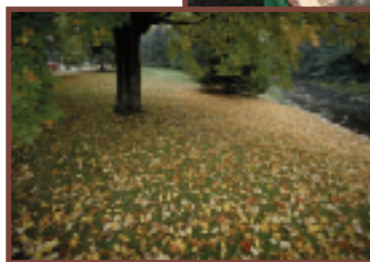


Exterior Color Seminar

色は時代をものがたる 西島 幸子氏

大地からの贈り物… 秋色 Harvest Color

	・ 椀皮色(ひわだいろ)		・ 小麦色(こむぎいろ)
	・ 朽葉色(くちばいろ)		・ ブロンド
	・ 柿色(かきいろ)		・ オークブラウン
	・ 煉瓦色(れんがいろ)		・ チェスナット・ブラウン
	・ 柿茶色(かきちゃいろ)		・ マホガニー・ブラウン
	・ 桑茶色(くわちゃいろ)		・ 栗皮色(くりかわいろ)



■COLOR WORKS

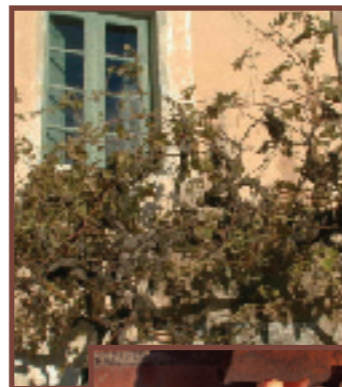
西島 幸子 (Nishijima Sachiko)

化粧品会社制作部でパッケージデザイン、デザイン会社等でカラー・パッケージデザイナーを経て1995年、COLOR WORKS設立。色を切り口とした商品企画・パッケージデザイン・カラープランニングを手がける。

(社)日本パッケージデザイン協会会員
(財)日本色彩学会会員
(社)日本流行色協会会員

著書：COLOR WORKS
花と色のメッセージ 誠文堂新光社

所在地：東京都目黒区自由が丘1-21-7



秋をイメージする色と言えば、
ハーベストカラー。

ハーベストとは「収穫」という意味ですが、実りの秋の豊かさ、秋に採れるおいしいものを連想させる色です。日本人の私達にとっては、田んぼに波打つ稲穂の色もハーベストカラーだといえば、わかりやすいかもしれません。ハーベストカラーを色相でいうとそのほとんどが、Y/Yellow(黄)とR/Red(赤)の間の色、YR(橙)です。この橙が、明るくトーンを変えるとベージュに、暗いトーンに変わるとブラウンになります。栗などの木の実、きのこ、里イモやハロウィンのカボチャ、蜜柑、柿といった果物、これらの色相はYR。YRとは、どうやら人間にとって「食べて安心ですよ」というイメージを発する色のようなのです。ファストフードのサインやインテリアに赤やオレンジ色が多く使われているのは、目立つことや楽しいイメージだけでなく、「安心」で「おいしい」をお客様に印象づけるため。もっとも最近では、カジュアルからナチュラルや本物志向を意識してグリーンやブラウンを使うお店も増えてきているようですが…。

私たちに一番身近なハーベストカラーは
木肌の色です。

チーク・ナラ・オーク・紫檀・キリなどの木肌、土を焼いたレンガもYRの仲間です。私たちの肌の色もYR。「雪のように白い肌」「小麦色に焼けた肌」「ブロンズ色の肌」など、肌色の表現は数限りなくあります。また、日本の伝統色にも茶系は多く、先人達は紅葉が朽ちる様を黄朽葉(きくちば)赤朽葉(あかくちば)青朽葉(あおくちば)濃朽葉(こきくちば)薄朽葉(うすくちば)…など「朽葉四十八色」で表しました。肌といい、葉の色といい、ほんとうに微妙な色の違いをこうまで感受できるとは…。それだけ奥深い色ということなのでしょう。

2004年度のAUTO COLOR AWARDS(オートカラーアワード)のエクステリア部門でグランプリを受賞したのは、ニュービートルの「ハーベストムーンベージュ」。ファッションカラー賞には、日産マーチのショコラが選ばれました。くるまのインテリアに茶系が使われることは多くありましたが、ボディカラーにおいても日産キューブ・シーマ・BMW-X5など様々なブラウン・ベージュが注目されています。

身の回りに多くあり、トーンによってカジュアルにもリッチにもなるハーベストカラー。

ファッション的には配色によってセンスを問われる!?なんてことも…。派手さはないが成熟したオトナの色として、ブラウンを着こなせたらファッション上級者になれることまちがいないです。

住宅街のショッピングモール

ひとつひとつが微妙に違う色のれんが、石の床、塗り壁、鋳物の門扉。住宅にも使われる素材と色です。街路樹や周辺環境とも調和し、安心感・穏やかさを感じるのには、ハーベストカラーのコーディネートの魅力です。

